

Install Log/CentOS5/Moodle

2025年 6月 29日

目次

- [Install Log/CentOS5/Moodle0](#)
 - [Moodleの導入0](#)
 - [必要なソフトウェアとライブラリの確認0](#)
 - [Apacheの設定0](#)
 - [PHPの設定0](#)
 - [データベースの作成0](#)
 - [Moodleのインストール0](#)
 - [Moodleの設定0](#)
 - [cronの設定0](#)
 - [参考0](#)

Moodleの導入



必要なソフトウェアとライブラリの確認

Moodleのドキュメント（Moodle Doc）を見ると、Moodleを稼働させるのに必要な、ソフトウェアやライブラリが書かれている。

- http://docs.moodle.org/en/Installing_Moodle

必要に応じて、追加インストールしておく。



Apacheの設定

/etc/httpd/conf/httpd.confを設定しておく。

- DirectoryIndex に index.php が書かれていることを確認
 - PHPがインストールされていれば、/etc/httpd/conf.d/php.confに書かれている
- AcceptPathInfo を on にしておく



PHPの設定

/etc/php.ini に、日本語関係はおいといて、メモリ制限やファイルのアップロードサイズを大きめに設定しておく。

```
memory_limit = 128M
upload_max_filesize = 20M
post_max_size = 20M
```

設定できたら、Apacheを再起動。

```
# service httpd restart
```



データベースの作成

Moodle用のデータベースを作成する。

```
# mysql --default-character-set=utf8 -u root -p
mysql> create database moodle default character set utf8 collate utf8_unicode_ci;
grant select,insert,update,delete,create,create temporary
```

また、データベースにアクセスできるユーザも作っておく。ユーザ名やパスワードは、お好みに設定。また、MoodleのサーバとMySQLサーバが別のマシンなら、ホスト名を設定しておく。

```
mysql> tables,drop,index,alter on moodle.*
to moodleuser@'hostname' identified by 'password';
```



Moodleのインストール

本家からではなく、日本での利用向けに多くのカスタマイズがされている、「[三重大学版 Moodle](#)」を使う。Subversion リポジトリからでもいいが、手軽に使うのならスナップショット版がおすすめ。

```
# wget http://portal.mie-u.ac.jp/src/moodle19.tar.bz2
```

Apacheのデフォルトディレクトリに、展開する。

```
# cd /var/www/html
# tar --bzip2 -xf moodle19.tar.bz2
# mv moodle19 moodle
# chown -R apache.apache moodle
```

また、提出された課題のファイルなどを保管する、データ用ディレクトリを作っておく。

```
# mkdir /var/www/moodldata
# chown -R apache.apache /var/www/moodldata
```



Moodleの設定

ブラウザで「<http://hostname/moodle>」にアクセスすると、設定が開始される。質問に答えていけばよい。

最後のほうで、config.phpが作成されるが、日本語名のファイルに対応させるため、次の設定を手動で追加しておく。

```
...
$CFG->unicodedb = true;
$CFG->unicodecleanfilename = true;
...
```



5分おきにMoodleにアクセスし統計情報を処理するスクリプトを作る。

内容は、例えば次のような感じ。

最後に、ファイルのパーミッションを設定。

[illegible]